

第三年次指導書（第一分冊）コメント

章・項・ページ	行	現行	改善案	備考
2.1.1	12	スピーカー	マイク	自分の声がコンピュータから再生されることは、学習意欲を高める
	15	マルチメディアは容量が少ない		容量は、大きいことが一般。だからこそ、今のコンピュータでは、大容量のHD、DVDなどが搭載されつつある。なお、第2分冊（第3章以降）の第15ページの表のうち「問題点」に「大量の」とある。
第32ページ～ 第42ページ		Flashソフトの記述	要点を簡略にまとめ、画面図など多くは、「付録」とすべき	あまりにもマニュアル的
第45ページ		簡単なWebサイトの作成	チームで役割分担などし、纏め上げていくような内容の記述、また、デザインが重要であることが分かるような記述とする。なお、役割分担で、お互いの考えやアイデアに共感し相互理解など促進されること、つまり「プロジェクト法」の良い点分かるように記述。	「プロジェクト法」のかけこなしな指導内容あるいは学習内容とする。 なお、Webサイトの作成の目的は、「自分探し」である。そして、「デザイン」は「制御」と並ん

				で、今後ますます重要となる。
第 49 ページ～ 第 51 ページ	表中、 ほか	「情報のエ チケット」	この「エチケット」は、情報 だけではなく、日常生活でも 重要であることが分かるよう に記述。	コンピュータの 無い学校にも適 用できる。
第 52 ページ	授 業 過 程 の 表 中	「情報機器 の世紀」	新聞も、雑誌も、テレビも、 ビデオも、情報機器であるこ と。しかし、コンピュータは、 今の時点では、最も私たちの 考え方つまり思考や伝達に大 きな影響を与えている、とい うことが分かるように記述。	コンピュータ は、ユビキタス 社会の中で、だ んだん小型化さ れ、見えなくな ってくる。また、 コンピュータの 無い学校等へも 配慮。
第 56 ページ	授 業 2		情報を批判的にとらえる「メ ディアリテラシー」という考 え方があることも、考慮。	
第 57 ページ	授 業 3 (バ ー ジ ョ ン 1)		「情報のマナー」は、日常生 活のマナーでもあることが分 かるように記述。	誹謗中傷は、日 常生活での手 紙、会話でもあ ってはいけない し、著作権など 保護すること も、日常生活で 考えられるこ と。コンピュータ が無くても、 意味ある授業内 容とする。第 2 分冊（第 3 章以 降）の第 21 ペ ージ下から 3 行目 に、関連事項が 記述されてもい る。

第 64 ページ～ 第 65 ページ	授 業 4 (バ ー ジ ョ ン 1)、 授 業 5		メディアリテラシーが重要となることが分かるように。また、ウイルスからコンピュータを保護すること、個人情報の保護は、確かに重要であるが、もっと重要なのは、ウイルスを作らないこと、「情報を共有」して、「相互に理解すること」「共に賢く生きること」が重要であることが分かるような記述。	メディアリテラシーは、今日及び今後の重要な課題。また、「共に生きる」はモ国教育指針の中の「教育の4つの目的の一つ」
第 66 ページ	授 業 6		プログラミングの目的は、論理的思考の訓練であること、将来的には、「制御」あるいは「モデリング」に発展することが分かるように記述。	制御とモデリングは、前述のデザインとともに、今後、いっそう重要となるし、コンピュータが無くても、指導が可能。

ページのはじめへ

次のページへ